

平成30年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書
(平成29年度対象)

平成30年11月

人吉市教育委員会

目 次

〈 は じ め に 〉	1
人吉市教育委員会委員名簿（平成30年11月26日現在） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	
1 教育委員会の活動及び運営状況	2
(1) 教育委員会の概要	2
教育委員会の目的	2
人吉市教育委員会委員（平成29年度の教育委員）	2
(2) 教育委員会の主な活動内容	2
教育委員会の活動状況	2
教育委員会会議	3
① 会議の開催状況（平成29年度実績）	3
② 審議状況	3
総合教育会議	3
① 会議の開催状況（平成29年度実績）	3
② 審議状況	3
教育委員の活動	3
① 教育委員の所管施設訪問状況	3～6
2 点検評価の目的	7
3 学識経験者の知見の活用	7
○ 学 識 経 験 者	7
4 点検評価の対象	8
○ 人吉市教育委員会が点検及び評価を行った事業	8
5 点検評価の結果	8
(1) 点検評価シートの見方	9～10
(2) 総合評価基準	11
(3) 点検評価シート	
目次	12
こども王国保安官事業	13～14
英語教育推進事業（外国語指導助手配置事業）	15～16
学校給食費滞納対策事業	17～18
一井正典「青雲の志」育成事業	19～20
人吉駅伝大会事業	21～22
犬童球溪頭彰音楽祭事業	23～24
史跡大村横穴群保存整備事業	25～26
移動図書館事業	27～28
〈 教 育 方 針 〉	29

〈はじめに〉

人吉市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすため、平成29年度事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表します。

人吉市教育委員会

人吉市教育委員会の構成

(平成30年11月26日現在)

教育長	末次 美代
委員（教育長職務代理者）	西口 詳一郎
委員	尾方 篤
委員	永田 ミキ
委員	長船 法文

地方教育行政の組織及び運営に関する法律〈抜粋〉

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会の活動及び運営状況

(1) 教育委員会の概要

〈教育委員会の目的〉

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会の基本理念として、地方公共団体における教育行政は、教育基本法の主旨にのっとり、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう、国との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行われなければならないとなっています。

本市においては、人吉市第5次総合計画を上位計画として、人吉市教育振興基本計画に基づいた教育目標の達成に向けて、教育委員会委員及び事務局を中心に高い使命感を持ちながら市民の意向を反映した責任ある教育行政が実現できるように努力しています。

〈人吉市教育委員会委員（平成29年度の教育委員）〉

役職名	氏名	就任	任期満了
教育長 (新制度教育長)	末次 美代 (平 27.7.1 就任)	平成 27 年 7 月 1 日 平成 30 年 7 月 1 日再任	平成 33 年 6 月 30 日
委員 (教育長職務代理者)	西口 詳一郎 (平 27.7.1 就任)	平成 26 年 4 月 10 日 平成 30 年 4 月 9 日再任	平成 34 年 4 月 9 日
委員	尾方 篤	平成 25 年 7 月 1 日 平成 29 年 7 月 1 日再任	平成 33 年 6 月 30 日
委員	永田 ミキ	平成 28 年 10 月 1 日 平成 29 年 1 月 1 日再任	平成 32 年 12 月 31 日
委員	長船 法文	平成 28 年 10 月 1 日 平成 29 年 10 月 1 日再任	平成 33 年 9 月 30 日

(2) 教育委員会の主な活動内容

〈教育委員会の活動状況〉

教育委員会の活動としては、教育委員4名で、小学校6校、中学校3校、計9校の学校訪問を行い、教育現場の声を活かした教育行政を推進しています。

教育委員としての見識を広め今後の本市教育行政の推進に活かすために、平成29年8月に宮崎市で開催された「第12回九州地区市町村教育委員会研修大会」に参加し、串間市の御崎馬を活用した自然体験学習や日向市のキャリア教育について研修し、各市町村の様々な取り組みを学び理解を深めました。

教育委員会の運営としては、教育委員会会議を年15回開催し、審議事項37件、承認・協議等12件について審議・協議を行い、今後取り組むべき事業の方向性を決定しました。更に、「広報ひとよし」を利用し、定例の教育委員会議等への傍聴の呼びかけを行い、開かれた教育委員会を目指しています。

〈教育委員会会議〉

① 会議の開催状況（平成29年度実績）

会 議	開 催 数	傍聴者数
定例会	12回（月1回）	8人
臨時会	3回	0人

② 審議状況

（ア）付議案件数

議案	37件
承認・協議等	12件

（イ）会議に付された主な案件

- ・人事案件について
- ・教育委員会の点検及び評価について
- ・規則・要項の制定及び改正について
- ・奨学生の決定について
- ・一般会計予算について
- ・人吉市学校運営協議会委員等の任命について
- ・損害の賠償について

〈総合教育会議〉

① 会議の開催状況（平成29年度実績）

（ア）11月開催（第1回）

（イ）2月開催（第2回）

② 審議状況

（ア）協議事項 5件 教育委員出席状況 4名

（イ）会議に付された主な案件

- ・教育大綱について
- ・小学校運動部活動の社会体育移行に伴う経過報告について
- ・熊本県学力調査等から見える人吉市の子どもたちの現状について

〈教育委員の活動〉

①教育委員の所管施設訪問状況

(ア) 学校訪問

区 分	対 象	期 日	教育委員出席状況
小学校訪問	6校	平成29年7月～	延べ24人
中学校訪問	3校	平成29年11月	延べ11人

(イ) 他の主な会議・行事等

会議・行事等	期日	教育委員出席状況
教職員辞令伝達式及び宣誓式	平成29年4月3日	5名
市内小・中学校入学式	平成29年4月10日	5名
人吉文化協会定例理事会	平成29年4月24日	1名
人吉市スポーツ推進委員総会	平成29年4月28日	1名
第1回学校支援推進協議会	平成29年5月10日	1名
中学校体育大会（一中、二中）	平成29年5月14日	2名
第69回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会奈良大会	平成29年5月18日 ～5月19日	1名
市内小学校運動会（三中は大畑小と合同）	平成29年5月21日	5名
平成29年度熊本県市町村教育委員会連絡協議会定例会	平成29年5月22日	1名
放課後パワーアップ教室開講式	平成29年5月24日	5名
第1回校区公民館長会議	平成29年5月25日	1名
東西コミセン成人講座・子ども講座開講式	平成29年5月28日	1名
人吉球磨租税教育推進協議会総会	平成29年5月30日	1名
東間コミセン成人講座開講式	平成29年5月31日	1名
犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第1回）	平成29年6月1日	1名
人吉市人権教育推進連絡協議会総会	平成29年6月1日	1名
人吉市立教育研究所総会	平成29年6月2日	1名
人吉市青少年育成市民会議総会	平成29年6月3日	1名
西瀬コミセン成人講座開講式	平成29年6月5日	1名
第1回社会教育委員会	平成29年6月8日	1名
人吉球磨地域特別支援連携協議会	平成29年6月8日	1名
中原コミセン成人講座開講式	平成29年6月9日	1名
人吉球磨日本遺産活用協議会総会	平成29年6月22日	1名
学校運営協議会（人吉東小）	平成29年6月22日	1名
人吉市教育支援委員会	平成29年6月29日	1名
ひとよし花まる学園大学実行員会総会	平成29年7月3日	1名

学校給食食物アレルギー対応委員会	平成 29 年 7 月 3 日	1 名
御下の乱追悼式	平成 29 年 7 月 7 日	1 名
学校運営協議会（東間小）	平成 29 年 7 月 11 日	1 名
東西コミセン短期講座	平成 29 年 7 月 14 日	1 名
第 2 回校区公民館長会議	平成 29 年 7 月 19 日	1 名
学校給食運営委員会総会	平成 29 年 7 月 21 日	1 名
夏休みパワーアップ教室開講式	平成 29 年 7 月 21 日	5 名
第 33 回人吉球磨児童による童話発表大会	平成 29 年 7 月 23 日	4 名
人吉市学校安全衛生委員会	平成 29 年 7 月 25 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第 2 回）	平成 29 年 7 月 26 日	2 名
人吉球磨人権教育研究大会全体会	平成 29 年 7 月 27 日	1 名
夏休みパワーアップ教室閉講式	平成 29 年 7 月 31 日	5 名
人吉市いじめ問題対策連絡協議会	平成 29 年 8 月 2 日	1 名
第 12 回九州地区市町村教育委員研修大会	平成 29 年 8 月 3 日～8 月 4 日	5 名
第 2 回学校支援推進協議会	平成 29 年 8 月 10 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクール予選	平成 29 年 8 月 19 日 ～8 月 20 日	2 名
第 7 2 回熊本県民体育祭人吉市選手団結団式	平成 29 年 8 月 25 日	1 名
人吉球磨の民謡全国選手権大会	平成 29 年 9 月 2 日～9 月 3 日	1 名
第 2 回社会教育委員会	平成 29 年 9 月 7 日	1 名
人吉市教育支援委員会	平成 29 年 9 月 20 日	1 名
小学校運動部活動の社会体育移行に関する指導者説明会	平成 29 年 9 月 28 日	1 名
人吉東小運動会	平成 29 年 10 月 1 日	1 名
第 31 回熊本縣市町村教育長研修大会	平成 29 年 10 月 5 日 ～10 月 6 日	1 名
青少年育成関係 6 団体交流会	平成 29 年 10 月 6 日	1 名
第 31 回九州都市教育長協議会定期総会並びに研究大会	平成 29 年 10 月 11 日 ～10 月 13 日	1 名
花まる学園大学開講式	平成 29 年 10 月 14 日	1 名
小学校運動部活動社会体育移行校区検討委員会（東）	平成 29 年 10 月 30 日	1 名
小学校運動部活動社会体育移行校区検討委員会（中原）	平成 29 年 10 月 31 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクール本選	平成 29 年 11 月 3 日	2 名
小学校運動部活動社会体育移行校区検討委員会（西瀬）	平成 29 年 11 月 7 日	1 名
小学校運動部活動社会体育移行校区検討委員会（西）	平成 29 年 11 月 9 日	1 名

犬童球溪顕彰音楽祭碑前祭・学校発表会	平成 29 年 11 月 10 日	5 名
小学校運動部活動社会体育移行校区検討委員会（大畑）	平成 29 年 11 月 13 日	1 名
第 3 回校区公民館長会議	平成 29 年 11 月 20 日	1 名
小学校運動部活動社会体育移行校区検討委員会（東間）	平成 29 年 11 月 20 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭音楽のひろば	平成 29 年 11 月 23 日	1 名
第 3 回学校支援推進協議会	平成 29 年 11 月 24 日	1 名
第 3 回社会教育委員会	平成 29 年 11 月 30 日	1 名
第 6 4 回人吉駅伝大会	平成 29 年 12 月 10 日	1 名
市内中学生を対象とした命の授業	平成 29 年 12 月 20 日	5 名
人吉市学校安全衛生委員会	平成 29 年 12 月 21 日	1 名
人吉市成人式	平成 30 年 1 月 3 日	4 名
図書館まつり	平成 30 年 1 月 13 日	5 名
平成 29 年度熊本県市町村教育委員大会	平成 30 年 1 月 15 日	5 名
第 4 回学校支援推進協議会	平成 30 年 1 月 16 日	1 名
人吉市子ども議会	平成 30 年 1 月 19 日	1 名
第 4 回校区公民館長会議	平成 30 年 1 月 24 日	1 名
人吉市学校支援地域本部事業 10 周年 記念大会 学校支援ボランティアの集い	平成 30 年 2 月 3 日	4 名
人吉市立教育研究所発表大会	平成 30 年 2 月 7 日	5 名
人吉市いじめ問題対策連絡協議会	平成 30 年 2 月 9 日	1 名
第 15 回ひとよし温泉春風マラソン	平成 30 年 2 月 18 日	1 名
小学校運動部活動社会体育移行検討委員会全体役員会	平成 30 年 2 月 20 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第 3 回）	平成 30 年 2 月 22 日	2 名
大畑コミセン成人講座閉講式	平成 30 年 2 月 24 日	1 名
第 4 回社会教育委員会	平成 30 年 2 月 27 日	1 名
学校給食食物アレルギー対応委員会	平成 30 年 2 月 27 日	1 名
放課後パワーアップ教室閉講式	平成 30 年 2 月 28 日	5 名
市内中学校卒業式	平成 30 年 3 月 11 日	3 名
人吉市学校安全衛生委員会	平成 30 年 3 月 15 日	1 名
草木山川学校（春版）	平成 30 年 3 月 17 日	2 名
第 5 回校区公民館長会議	平成 30 年 3 月 22 日	1 名
学校給食運営委員会総会（第 2 回）	平成 30 年 3 月 22 日	1 名
市内小学校卒業式	平成 30 年 3 月 22 日	5 名
小学校運動部活動の社会体育移行に関する指 導者説明会	平成 30 年 3 月 28 日	1 名
平成 30 年度食品納入業者指定書交付式	平成 30 年 3 月 29 日	1 名

2 点検評価の目的

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、平成20年4月から施行されました。法改正の目的「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして「教育委員会の点検評価」が位置づけられています。

教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

3 学識経験者の知見の活用

点検評価の客観性を確保するために「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」を図ることとなっています。

教育委員会では、広い観点からの知見の活用を図るため、担当課が行った点検評価の結果について3名の学識経験者から様々なご意見、ご助言をいただき、そのご意見等を参考にしながら点検評価を行ったところです。

○ 学識経験者

原口 昌幸（はらぐち まさゆき）氏 市P T A連絡協議会会長
深水 雄二（ふかみず ゆうじ）氏 元市職員
国武 美幸（くにたけ みゆき）氏 元小中学校教諭

4 点検評価の対象

平成30年度に点検評価を行う事業は、人吉市教育方針に基づき平成29年度に実施した主要な8事業としました。

○ 人吉市教育委員会が点検及び評価を行った事業

課 名	点検及び評価を行う事業
教 育 総 務 課	こども王国保安官事業
学 校 教 育 課	英語教育推進事業（外国語指導助手配置事業）
	学校給食費滞納対策事業
社 会 教 育 課	一井正典「青雲の志」育成事業
	人吉駅伝大会事業
歴 史 文 化 課	犬童球溪顕彰音楽祭事業
	史跡大村横穴群保存整備事業
図 書 館	移動図書館事業

5 点検評価の結果

教育委員会においては、学識経験者の知見の活用を図りながら事業評価を行い、今後の方向性を示す総合評価をA～Dで表し、最終的な点検評価として意見をまとめました。

(1) 点検評価シートの見方

点検評価シート（評価対象：平成29年度実施事業）

事業名・担当部署					
1	事業名	教育委員会が実施した事務事業名			
2	担当課名	担当課名	担当者	—	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策
				事業の目的に合致した第5次総合計画における政策名称	事業の目的に合致した第5次総合計画における施策名称

事業の内容					
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	誰のために行う事業なのか			
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	事業の実施により誰を、どのような状態にしたいのか (意図・ねらい・コンセプト)			
6	事業の概要	事業の全体概要			
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30
		合計	0千円	0千円	0千円
		① 国庫補助金	平成28年度にかかったコスト	平成29年度にかかったコスト	平成30年度のコスト予定額
		② 県補助金			
		③ 起債			
④ その他					
⑤ 一般財源	内：一般財源の額	内：一般財源の額	内：一般財源の額		

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	平成29年度事業の成果と実績
9	今後の課題や改善等	平成29年度事業実施に伴い、明らかになった課題と具体的な改善策

今後の事業計画

10 今後の事業の方向性

平成30年度以降における当該事業の「方向性」

学識経験者の意見

11

教育に関し学識経験を有する者の意見

教育委員会の評価

総合評価

12

総合評価
基準に関
してはP
11のと
おり

教育委員会における意見

(2) 総合評価基準

区分	評価結果に基づく改善等の内容	内容の詳細
A	継続して管理・運営を進めることが適当	特に問題もなく進捗状況も順調で、計画的に事業を進めるもの。
B	事業の進め方を改善検討し、事業は継続	進捗状況は順調であり、事業内容にも意義があるため継続が望ましいと判断できるが、事業の進め方等に改善の余地があるもの。
C	事業規模・内容、または実施主体の見直しを検討	進捗状況も芳しくなく、結果もあまり期待できないが、事業規模・内容・実施主体に改善の余地があるもの。
D	事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	進捗状況が大幅に遅れており、事業そのものに行政が関与する必要がなく休・廃止が望ましいもの。

(3) 点検評価シート (P 13 ~ P 28)

平成30年度点検評価シート

(8事業)

目 次

平成 30 年度 点検及び評価

1	こども王国保安官事業（教育総務課）	13～14
2	英語教育推進事業（外国語指導助手配置事業）（学校教育課）	15～16
3	学校給食費滞納対策事業（学校教育課）	17～18
4	一井正典「青雲の志」育成事業（社会教育課）	19～20
5	人吉駅伝大会事業（社会教育課）	21～22
6	犬童球溪顕彰音楽祭事業（歴史文化課）	23～24
7	史跡大村横穴群保存整備事業（歴史文化課）	25～26
8	移動図書館事業（図書館）	27～28

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成29年度事業)

事業名・担当部署							
1	事業名	こども王国保安官事業					
2	担当課名	教育総務課	担当者		福永 卓也		
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			3	母なる清流球磨川が輝く自然安全都市ひとよし		15	交通安全・防犯体制の充実

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	小中学校の児童・生徒、地域住民				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	「子どもたちをやさしく見守るまちづくり」の一環として、児童生徒の登下校及び各種行事等における安全対策を図る。 また、事故や犯罪の発生しにくい環境整備として、地域が一体となって推進する防犯活動や交通安全対策などソフト面の充実も必要なため。				
6	事業の概要	こども王国保安官事業は、平成18年度に「人が子どもたちをやさしく見守るまちづくり」の一環として、児童生徒の登下校及び各種行事における安全対策のため「こども王国保安官設置要項」を制定し、老人クラブ連合会の協力を得てスタートした。今や活動のシンボルとなっている黄色いキャップやジャンパー、ベスト姿が市内各所で毎日見かけられ、明るく元気に活発にボランティア活動が行われている。社会的にも高く評価され市民にも広く周知されており、児童生徒の見守りのみに留まらず、特に登下校時の不審者情報の提供や交通事故の減少にも貢献している。平成23年度に5周年記念大会、平成28年度には10周年記念大会が開催され、各種表彰も実施されている。				
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30	
		合計	2,269千円	169千円	193千円	
		① 国庫補助金				
		② 県補助金				
		③ 起債				
		④ その他				
⑤ 一般財源	2,269	169	193			

事業の成果と課題	
8	<p>成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】</p> <p>こども王国保安官事業は、老人クラブ等の協力のもと児童生徒への登下校時の挨拶や声かけをすることで、地域ぐるみで子どもたちに関わり見守る体制をつくることを目的としており、人吉市らしい利他の精神を持った事業として定着している。各小中学校から、児童生徒の挨拶の励行や地域コミュニケーションの活性化に大いに寄与していると感謝の声が上がっていると共に、感謝の会や給食交流会の開催、お礼の手紙を渡す等、子ども会も含め感謝の意を表している。保護者にも日常的に見守っていただいているという安心感を与えており、地域の安心安全なまちづくりの一助ともなっている。なお、こども王国保安官の登録人数は、平成27年度が593人、平成28年度が549人、平成29年度が472人であり減少傾向である。</p>
9	<p>今後の課題や改善等</p> <p>本事業は、老人クラブを中心に小中学校の登下校時に行われているが、老人クラブ加入者数の減少に伴い人員確保の課題が上がっており継続が懸念されている。今後は社会教育事業の中において、地域での活動の一環として各種団体と連携・協議していく必要がある。</p>

事業の評価と今後の事業計画

	10	今後の事業の方向性	<p>こども王国保安官事業は11年間継続しているが、老人クラブ新規加入者の減少と保安官の高齢化により年々登録者が減少傾向にあり、活動主体の人材確保が課題となっている。今後は人吉市老人クラブ連合会だけでなく、個人やその他の組織の方々にも加入してもらえよう周知方法を検討する必要がある。また、11年経ったことで設立当初の意義や意味が薄れてきており、地域の考え方も変わってきた面もみられる。今後も社会教育事業との連携・協議により、人吉市らしい利他の精神を持った事業を無くさないよう地域で子どもを見守る体制を継続していく。</p>
--	----	------------------	---

学識経験者の意見

	11		<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアで利他の精神をもって頑張っておられるので、保護者も学校も地域も大変感謝し敬意を表していると聞いている。無理をしない程度に出来る範囲で、お孫さんを見守るという感じで続けていって欲しい。 ・ 登下校の見守りが終わった後でも近所の方々と会話をされており、とても地域にとって良いことだと認識している。 ・ 是非継続して欲しい事業であるが、保安官の人員減少が最大の課題である。昨年同様の意見だが、当該事業は社会教育活動の一環として他の団体との連携・強化を図り地域学校協働活動として進めていく時期にあると思われる。一方で、長く継続しているからかも知れないが、地域や保護者の意識もどこか「やってもらって当たり前」になっているところがないだろうか。地域・学校との連携や連絡がうまく機能しているのかなどの実態調査や意識調査が必要なのではないだろうか。 ・ これまでの活動への評価を重視し「A」評価で適当と思われる。
--	----	--	---

教育委員会の評価

	12	A	<p>総合評価</p> <p>ボランティアで自発的に子どもたちの見守りを行うなど、防犯や交通事故の未然防止に多大な貢献をされている事業である。教育委員会としても大変感謝している。</p> <p>感謝や継続を望む声が多くあり、その活動は黄色いジャンパーと共に広く浸透している。</p> <p>事業の意義や活動内容は大変重要と思われるため、今後も是非継続していただきたい。老人クラブの会員減少に伴い存続が危ぶまれているという課題も厳しいものがあるが、活動を継続されている方々も少なからずいらっしやることに敬意を表したい。</p> <p>利他の精神を基本とした人吉らしさを持つ当該事業を存続させるために、社会教育関連団体等とも協議し、地域学校協働活動との連携を進めていく必要があるが、校区によっても活動状況や考え方が違う部分も見られる。</p> <p>存続可能にするためには個人の参加が今後のカギを握ると思われるため、個人の掘り起こしやPRの方法、周知の工夫など検討する必要がある。</p>
--	----	----------	---

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成29年度事業)

事業名・担当部署							
1	事業名	英語教育推進事業（外国語指導助手配置事業）					
2	担当課名	学校教育課	担当者		鵜口 光和		
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		10	学校教育の充実

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	市内小・中学校の児童生徒及び教職員				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のコミュニケーション能力の素地の育成と学力向上 ・現代社会に対応するグローバル人材の育成 ・教職員の英語指導力向上と英語力の向上 				
6	事業の概要	<p>【小学校】 英語が好きになる英語教育（コミュニケーション能力の素地の育成）</p> <p>【中学校】 英語が上手になる英語教育（学力の向上）</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校を訪問し、授業内容の改善や外国語指導助手の活用充実を図る。 ・英語研修を企画・実施し、教職員の英語指導力と英語力の向上を図る。 ・定期テストの見直し、模擬共通テストの作成 ・校内研修でのアドバイスの実施 				
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30	
		合計	5,572千円	6,048千円	6,052千円	
		① 国庫補助金				
		② 県補助金				
		③ 起債				
		④ その他				
	⑤ 一般財源	5,572	6,048	6,052		

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	<p>外国語指導助手が地域在住で長期雇用が可能であり、教職員や児童生徒との親密な関係づくりと地域に密着した教育の実践が可能となっている。</p> <p>また、英語テクニカルアドバイザーの配置により、外国語指導助手と教員の連携が密に図られるようになった。併せて、教員の英語指導力向上が図られ、児童生徒の英語への関心が進み、市内中学校においては英検3級以上取得者の割合が平成28年度の17.0%から、平成29年度には29.9%（全国40.7%、熊本県36.3%）となった。更に、市内中学校の英検受検者数も平成28年度の55名から、平成29年度には134名へと増加した。</p>
9	今後の課題や改善等	<p>外国語指導助手と連携を取りながら英語で授業を導入すること（スモールトーク）に対する教員の苦手意識を取り除く必要がある。今後は、英語担当教員に対して、市教委主催でスモールトーク講座を年数回開催し、英語で授業をスムーズに進めていけるように改善策を講じる必要がある。</p>

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	<p>平成30年度から小学校3年生以上において外国語活動が前倒しで開始され、高学年の英語教科化と併せて平成32年度からは本格実施となる。将来において国際社会に対応できる人材を育成するためには、小中学校在籍中にコミュニケーション能力の素地の育成と学力向上を図り、併せて教員の英語指導力向上を図ることが必要である。そのため、教員の指導力向上を目的とした英語テクニカルアドバイザーを配置し、外国語指導助手と連携して取り組んだ。また、文部科学省では、中3の英検3級以上取得者50%（全国）を目標として掲げており、その目標達成に向けて初年度から積極的に取り組むことができた。</p> <p>今後も、英語テクニカルアドバイザーとの密な連携をとって、児童生徒が外国語指導助手の英語に触れる機会を増やし、学級担任や教科担任とのより効果的なティーム・ティーチングによる指導の充実を図り、児童生徒の英語に対する興味・関心を高め、学力向上に努めていきたい。</p>
----	------------------	---

学識経験者の意見

11		<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村に先駆けて英語テクニカルアドバイザー（TAE）を配置するなど、本市の英語教育の充実のために英語指導力を継続して向上させようという取り組みは評価したい。 ・ALTが安定して継続雇用可能というのも英語教育推進を図るうえで非常に効果的と思われる。 ・国が示した英語教育改革により、全国の小中学校で英語教育に力を入れるようシフトした現在において、先生方の負担が増えることを危惧する部分もある。児童生徒においても、英語が好きになって得意になるか、ついていけず嫌いになって苦手になるか、極端に2極化しないかということも心配されるので、慎重かつ丁寧に推進していただきたい。 ・中3の英検3級以上取得者50%を目標に掲げるのであれば、受検者数を100%に近いようにする工夫や財政的支援をしなければならないのではないかと。 ・英語力向上の指標としてなかなか難しい部分もあるが、テストの点数の向上や理解度など独自の数値を示すことや、アンケートを取って児童生徒がどのように感じ考えているのかを調査してはどうか。 ・TAE設置の効果もかなりあると思われるので、事業コストにも計上してはどうか。 ・今後課題も出てくると思われるのでAに近い「B」評価で適当と思われる。
----	--	---

教育委員会の評価

	総合評価	
12	A	<p>本事業の重要さが高まるとともに、ALTの重要さも高まっていくものと思われる。英語テクニカルアドバイザー（TEA）が教員の指導力を向上させ、ALTと学校現場を繋ぐ役割を担っており相乗効果が期待できる。</p> <p>英検の取得率を一つの指標として活用するのは良い観点である。今後はアンケートの実施も検討する必要がある。</p> <p>現在はALTの安定雇用がなされているが、永久的に雇用するというのは不可能なため、優秀な人材の確保という点では潜在的に課題を抱えている。難しい課題であるが、今後の英語教育の充実のためには、常にアンテナを張っておくことも重要と思われる。</p>

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成29年度事業)

事業名・担当部署							
1	事業名	学校給食費滞納対策事業					
2	担当課名	学校教育課（学校給食センター）	担当者	園田 陽助			
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		10	学校教育の充実

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	人吉市内小・中学校の児童・生徒及び保護者				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	<p>学校給食は、児童・生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、食に関する正しい理解と適正な判断力を養う上で重要な役割を果たしている。学校給食に要する経費のうち食材費のみが保護者負担（給食費）であるが、その一部については、公費により助成しているところである。そこで、すべての児童・生徒に対し安定した給食を提供するとともに、保護者負担の公平性を期すため、給食費に滞納が生じることのないよう方策を講じるものである。</p>				
6	事業の概要	<p>滞納の長期化を防ぐため、未納初期の段階において電話による納付依頼や督促・訪問・呼出を行うなどして滞納解消に努めている。その対応については、学校を主体としているところであるが、改善が図られない場合は、学校長の求めに応じ、PTA会長や給食センターとも連携して実施する一方、滞納が長期または悪質な場合においては、学校給食センター運営委員会が中心となって学校と協議しながら対策にあたることとしている。</p>				
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30	
		合計	0千円	0千円	0千円	
		① 国庫補助金				
		② 県補助金				
		③ 起債				
		④ その他				
⑤ 一般財源						

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	<p>市内の全小・中学校における給食費未納対策の共通化を図り、度重なる督促等にも応じない場合は、学校給食センター運営委員会が関与していくことを明確に示した「学校給食費未納対策システム」を構築した。</p> <p>また、各学校における未納対策の取り組みの結果、平成30年度に繰り越した平成29年度分の滞納は、5世帯分138,986円となり、前年度の4世帯分132,012円を上回った。なお、平成29年度分の滞納は、6月15日に一部入金され、4世帯分72,010円となっている。</p>
9	今後の課題や改善等	<p>繰り越した前年度滞納分は、当該年度中に解消することが肝要である。</p> <p>また、古くは平成10年度分の給食費が今もなお納付され続けている一方で、行方不明などにより長期間納入が滞っているケースもある。私法上の債権の取り扱いに等しく、法的な手段に訴えていく方針に加えて、時効の援用が図られる見込みの滞納分については、債権の放棄も視野に検討を早急に進めていく必要がある。</p>

事業の評価と今後の事業計画

	10	今後の事業の方向性	<p>課題については、方法・手段を選ぶのみで、その方向性は定まっており、未納対策として一定の効果が表れていると考えている。 今後もしっかりと継続していくことで確実に全体の滞納額が減少していくものと考えられる。</p>
--	----	------------------	--

学識経験者の意見

	11		<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食費未納対策システムや学校給食費助成金の導入、学校及び担当者の努力により現年分の滞納が非常に減少したことは大変成果が上がっており感謝するものである。 ・学校給食費助成金の影響は大きく、新たな滞納を作らないことに少なからず効果が出ている。公費助成事業については今後も継続し、保護者への理解や協力などの周知を徹底しながら市の財政状況を考慮し無料化へ向け進めていただきたい。 ・PTA総会など様々な機会をとらえて、滞納額の公表や滞納額の減少についても感謝や成果をお知らせしていく工夫も大事だと思われる。 ・現年度分の滞納が減少したことについては大変評価できるものの、過年度分の滞納について9割が連絡が取れないと説明を受けた。このような現状を考えると、債権放棄や法的手段の活用など何らかの新しい動きを始めなければならない時期に来ている。 ・課題もあるが現年分の滞納額減少の実績を考慮し「A」評価で適当と思われる。
--	----	--	--

教育委員会の評価

		総合評価	
	12	A	<p>学校給食費未納対策システムを導入したことで、学校によって違う対応が無くなり、どの学校も同じ対応で進めているため、現年度分の滞納額の減少に繋がっている。</p> <p>今後も、学校や行政などの関係者による地道な努力と法的なものも含めた取り組みについて検討し、より滞納を減らしていく必要があるが、理想としては将来滞納が解消され、この事業自体が無くなることを切に願うものである。</p>

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成29年度事業)

事業名・担当部署						
1	事業名	一井正典「青雲の志」育成事業				
2	担当課名	社会教育課	担当者		山田 美智子	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		9
						社会教育の充実

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	人吉市内在住で人吉・球磨の高校、専門学校に通う生徒				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	日本の近代歯科医学の先駆者である郷土の偉人 一井正典氏の足跡をたどり顕彰することで、次世代を担う青少年に夢と希望を抱かせ、第二、第三の一井氏を目指す若者に、世界最先端の地を経験させる機会を創出する。				
6	事業の概要	<p>平成25年度から隔年実施をしており、今回で3回目の事業実施。 人吉市内在住の高校生、専門学校生を対象として募集、19名の応募があり、その後作文と面接で選考を行い、6名の派遣者を決定した。 事前研修：市長講話・プレゼン準備 派遣事業内容：平成30年3月24日～平成30年3月30日 派遣者6人、引率2人 アメリカ合衆国カリフォルニア州、ロサンゼルス、サンフランシスコ 地元高校との交流、聖光学院との交流、シリコンバレーの企業訪問、起業家との交流、スタンフォード大学・サンゼリ州立大学見学やロサンゼルス役場訪問 帰国後、報告書の作成と報告会を実施している。</p>				
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30	
		合計	0千円	2,425千円	0千円	
		① 国庫補助金				
		② 県補助金				
		③ 起債				
		④ その他		600		
⑤ 一般財源		1,825				

事業の成果と課題	
8	<p>成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】</p> <p>H29 応募者19名、派遣者6名（派遣者の自己負担 10万円/1人） 現地でのプレゼン発表の準備をしていく中で人吉のことをあらためて学ぶ機会となっている。また、現地で、一井正典氏の足跡をたどり、現地の高校生との交流やシリコンバレー訪問、現地で活躍している起業家の話を聞くことで多くの刺激を受け、派遣者一人ひとりが自分の中で成長を感じ取っていると考える。</p>
9	<p>今後の課題や改善等</p> <p>現地でコーディネートしていただく方の協力があり実施できている事業ではある。しかし、研修の企画から現地の手配まですべての行程が決まるまでの連絡調整を原課で行っておりかなりの時間を要している。 現地での公用でのクレジットカードが使用できないため、現金で支払うために多額の現金を所持したままの移動となり引率者の負担が大きい。</p>

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	<p>事業費にふるさと納税寄附金(140万円充当)を活用しており、納税者の方からも好評いただいている事業である。派遣者である高校生も現地での異文化に触れることで刺激を受け多くの事を学んでいる。</p> <p>しかし、今後は、研修事業の手法については運営面や委託を含めた検討をすべきであるとする。</p>
----	------------------	---

学識経験者の意見

11	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の偉人である一井氏について学び、氏の足跡をたどりながら当時の日本人が渡米し苦学の末に現地に開業した意義について考えるととても良い機会と認識している。 ・グローバルな海外の最先端技術の雰囲気に触れることは、本市の将来を担う若者にとって良い刺激を受けられる貴重な事業である。また、経験したことを人吉に帰ってから周りにフィードバックすることができ大変有意義な事業と思われる。 ・当該事業は人吉市独自の事業であり、地域活性化や移住定住施策の一助となっているので、市内外を問わずアピールして欲しい。 ・研修会の報告会は関係者のみではなく一般に公開されているが、認知度的に疑問もありもっと広く市民に周知し研修内容をどう広めていくかが今後の事業の盛り上がりにおける課題である。 ・この事業は大変有意義のある事業と認識しており、財政的な課題があるものの是非継続していただきたい事業である。しかしながら、事業の手法について海外での支払い等に色々苦勞や問題があることも事実であり、今後は安全面も考慮しながら慎重に事業の委託など持続可能なものとして進めていく必要がある。 ・今後も継続されると期待して「A」評価で適当と思われる。
----	---

教育委員会の評価

総合評価	
12	A
	<p>本事業は隔年で開催しており、青少年が地元の偉人を知る機会の創設と外国で未知の文化に触れることができる事業として大変好評である。</p> <p>一井氏の功績や生きざまについて、例えば小中学校の道徳教育等の教材化について取り組んではどうか。</p> <p>報告会はとても良くまとめてあり、参加者の考えや想いが伝わるものとなっている。中には英語力のなさを痛感した高校生もいるなど英語教育の充実にも繋がっている。</p> <p>今後も継続していく価値のある事業と思われるが、運営に関しては円をドルに外貨両替したり、現地のコーディネーターとの連絡調整など様々に慣れない業務が多い。細部によっては専門的な知識も必要であり、なかなか経験の蓄積が難しい部分も見られる。</p> <p>事業の認知度に関しては、まだまだ周知が十分でない面も感じており、小中学校の児童生徒への紹介や市内外へのPR方法など検討が必要と思われる。</p>

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成29年度事業)

事業名・担当部署							
1	事業名	人吉駅伝大会事業					
2	担当課名	社会教育課	担当者		和泉 龍二		
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		13	スポーツ・レクリエーションの推進

事業の内容					
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	中学・高校生及び一般（市内居住者及び市内事業所への勤務者）			
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	市民のスポーツに親しむ機会や、スポーツを始めるきっかけとなる場を提供し、心身ともにスポーツの振興、健康づくり、親睦を深める観点等から120チーム規模での事業を実施している。			
6	事業の概要	例年、12月第二日曜日に西瀬小学校をメイン会場として、1区から6区までの20.14kmの球磨川沿いの周回コースで開催している。 人吉駅伝大会は、64回を重ねる伝統ある大会で、平成29年度は、中学生男子・高校男子・女子・一般の4部門で96チーム（前年度106チーム）が出場している。			
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30
		合計	360千円	321千円	370千円
		① 国庫補助金			
		② 県補助金			
		③ 起債			
		④ その他			
	⑤ 一般財源	360	321	370	

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	9年連続で100チームを超す参加があったが、64回大会では残念ながら100チームを切る結果となってしまった。しかし、本大会は、県内トップクラスの高校生チームから年に一度の体力づくりや親睦目的のチームまで、参加者相互の交流とスポーツに親しむきっかけづくりや、市民の健康維持増進に一定の成果を得ているものと思われる。
9	今後の課題や改善等	運営面において、記録集計の遅れや誤りの防止が例年の課題であり、各中継所での計測業務・集計業務の迅速性・正確性を旨すとともに、スタッフの増員等により、各中継所からの迅速な情報伝達体制を整える必要がある。

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	<p>健康づくりやスポーツに親しむ機会を提供するために実施する事業であり、参加者相互の交流とスポーツに親しむきっかけづくりとして大きな役割を果たしているとともに、師走の風物詩として地域住民や家族の応援を巻き込んだ魅力ある大会となっていることから、今後は、更なる参加者の増加と安定したエントリー数を確保するため大会PRに力を入れていきたい。</p>
----	------------------	---

学識経験者の意見

11	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業は64回も続いている伝統ある事業で、年末を締めくくる師走の風物詩イベントとして市民にも根付いている。 ・少ない予算の中で長期にわたり実施されており、陸上協会や高校生ボランティアなど多くの市民により運営されている事業で称賛に値する。部門ごとに若干の参加者の増減はあるが、おおむね安定しているものと認識している。 ・コースについては、周回コースであり応援もしやすい。しかし、一部球磨川堤防を走るコースについては人通りも少なく沿道の応援が寂しい箇所や、場所によっては狭隘な交差点も見受けられ安全確保やコースの見直しに一考の余地があると思われる。 ・おおむね安定しており「A」評価で適当と思われる。
----	---

教育委員会の評価

12	A	<p>年末の寒い時期に開催される本事業は、師走が近づくと駅伝のことが思い出され、歴史の詰まった親しみのあるイベントである。陸上協会やボランティアの方々を支えられて長年にわたり手作りで開催されており、感謝すると共に敬意を払う事業である。</p> <p>参加者数もおおむね安定しており、全般的に安全面に考慮されているが、一部のコースには狭い部分もあることから再考すべき点もあり、より安全で楽しめるイベントへと改良していくことも重要である。</p>
----	----------	---

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成29年度事業)

事業名・担当部署							
1	事業名	犬童球溪顕彰音楽祭事業					
2	担当課名	歴史文化課	担当者	麻生 未奈			
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		11	市民芸術・文化の振興と継承

事業の内容						
4	誰のために行うか 【具体的な対象者・受益者など】	市民及び音楽祭出場者、並びに観客				
5	何のために行うか 【目的・ねらい・コンセプト】	人吉が生んだ音楽家・犬童球溪先生を顕彰する音楽祭を開催することにより、人吉球磨の音楽文化の充実、地域文化の向上とともに、人吉市の活性化を図ることを目的とする。				
6	事業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 個人コンクール：小中高高校生による独奏・独唱のコンクール。8月に予選、11月に本選を実施した。 学校発表会：人吉球磨郡内の小中高校による発表会を実施し、日頃の練習成果を披露。併せて、個人コンクール「球溪賞」受賞者の演奏も披露。 音楽のひろば：人吉球磨の音楽団体、小中学校（各1校）の吹奏楽部・音楽部、また、新たな試みとして広く市民に呼びかけ、小学生から成人までの幅広い世代による「特設合唱団」を結成、地域住民の参加を得たステージ発表を実施した。 				
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30	
		合計	4,167千円	3,065千円	3,934千円	
		① 国庫補助金				
		② 県補助金				
		③ 起債				
		④ その他				
	⑤ 一般財源	4,167	3,065	3,934		

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	<ol style="list-style-type: none"> 個人コンクール 予選102人、本選45人（前年各111人、45人） 学校発表会 小中高計36校、約1,450人参加（前年35校、約1,400人） 音楽のひろば 合唱・民謡・学校・特設合唱団、計7団体出演 <p>1、2、3ともに、この3年ほど参加者数等に大きな変化はないが、3で新たに作り組んだ特設合唱団は、小学生から高齢者まで参加し、歌をとおして世代間の交流が深められ、感動的なステージ発表となった。</p>
9	今後の課題や改善等	<p>一時減少傾向にあった「個人コンクール」の参加者は、この3年ほどは100人前後で推移しているものの、新たな参加者の確保など裾野を広げながら、さらなるレベルアップが望まれる。</p> <p>「音楽のひろば」については、特設合唱団の取り組みをとおして、今後さらに多くの市民の参加を働きかけ、市民の皆様が楽しめる、感動を味わえるステージとしたい。</p>

事業の評価と今後の事業計画

10 今後の事業の方向性

郷土が生んだ音楽家・犬童球溪先生の偉業を顕彰する音楽祭であり、「個人コンクール」にはじまり、「碑前祭」「学校発表会」と続き、「音楽のひろば」でフィナーレを飾る人吉市の秋の風物詩として市民の間に定着を図ってきた。今後は、個人コンクール参加者の増加によるレベルアップ・音楽家の輩出、特設合唱団などの企画による市民参加の増加を図り、さらに音楽文化の振興、音楽をとおしての街づくりを目指していく。

学識経験者の意見

11

- ・ 70年の長きにわたる歴史ある事業であり、特筆すべきものである。自信をもって推進できる事業と言える。
- ・ 「音楽のひろば」の特設合唱団の取り組みが素晴らしい。今後も是非継続してもらい、市民合唱団的なものに発展していくと、より人吉市が盛り上がるのではないかと思う。
- ・ 「学校発表会」は児童生徒にとって音楽に親しむためのとても良い機会である。勿体ないことに、発表に力を入れるため鑑賞する場合に慌ただしさが見受けられ、なかなか他の学校の発表ををゆっくりと聴けるタイミングが少ないということが課題である。
- ・ 「学校発表会」に観客として保育園児等も招待してはどうか。小さい時から音楽鑑賞を体験させることによって、将来的に本事業にとって役に立つのではないか。
- ・ 財政的な面もあるとは思いますが、数年に一度でもいいので有名人等を招き参加者を増やすことにより、本事業の周知が図られるのではないかと思う。
- ・ 工夫の余地もあり「B」評価で適当と思われる。

教育委員会の評価

総合評価

12

B

関係者の方々のご尽力により長きにわたり継続されている本事業は、大きく3つに分けて開催され「音楽の広場」でフィナーレを迎える。特設合唱団も好評であり継続していきたい事業である。

参加者の固定化など課題もあるため、伝統を大事にしつつも、将来に繋げていくために時代の流れや変化に対応する必要がある。事業の内容や運営方法について関係者と協議し、様々な意見の中から知恵と工夫をもって進めていく必要がある。

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成29年度事業)

事業名・担当部署							
1	事業名	史跡大村横穴群保存整備事業					
2	担当課名	歴史文化課	担当者	手柴 友美子			
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		12	歴史文化遺産の保存と活用

事業の内容					
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	市民及び来訪者			
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	史跡の本質的価値を保護し次世代に継承しつつ、その価値を現代生活に活かすあり方を導き出すよう整備する、「文化財の保存と活用」を目指す。			
6	事業の概要	平成6～16年度にかけて大村横穴群東群（人吉駅裏）の整備事業を実施したが、未整備であった西群（民家、JR鉄道事業部付近）での崩落が起こり、今後の大規模崩落の危険性が高まったため、岩盤の安定化を図り、文化財の保存と安全な公開活用を目的とした整備を実施。			
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30
		合計	15,178千円	25,446千円	0千円
		① 国庫補助金	7,580	12,720	0
		② 県補助金	758	1,272	0
		③ 起債			
		④ その他			
	⑤ 一般財源	6,840	11,454	0	

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	西群のうち民家・畑に面した部分（延長90m）をⅠ工区、さらにその東側（延長75m）をⅡ工区とし、平成29年度までにⅠ工区のうち、民家に面した崖面をアンカーピンやロックネットによる安定化工事を実施した（畑に面した部分は未整備）
9	今後の課題や改善等	平成28年の熊本地震の影響により新庁舎建設が急務となり、財政面で厳しく、残されたⅠ工区の整備を休止しているが、財政的に許せば、直ちに整備事業を再開したい。（国、県の補助を受けて進めている事業であるため、再開し完了させねばならない。中止することはできない）

事業の評価と今後の事業計画

10 今後の事業の方向性

大村横穴群は、古墳時代に造営されたと考えられる横穴で、肥後地域に特徴的な装飾を持つ横穴の南限域にあり、歴史的重要性が高い。
 岩盤崩壊の対処が現在休止している状況であるが、早急に国・県補助による整備事業を再開し、Ⅰ工区の工事を完了し、さらにⅡ工区の工事を進めたい。
 今後は、この保存整備事業等を踏まえ、史跡大村横穴群を次世代へ確実に継承し、地域振興などへの活用を促進する。

学識経験者の意見

11

- ・未整備部分がまだまだあり、財政的な問題もあって現在は休止しているが、当該区域には民家もあるので安全面を確保することを最優先とし、観光資源としての活用ではなく崩落防止としての早期着工を望む。
- ・東側が完了していることも知らなかったし、西側も整備していることも知らなかった。果たして市民はどれだけ当該事業を知っているのか懸念される部分もある。
- ・まずは市民に知ってもらうことが肝要であるので、人吉駅等に案内板やパンフレットの設置をしてはどうだろうか。広く市民に価値を認識してもらえれば大村横穴群の保存の意義へも理解が深まるのではないか。
- ・市民の学びの資源として考えれば、アピール不足であることは否めないし勿体ないと思う。
- ・歴史的な価値も高く重要であることは認識しているので今後も継続し進めていただきたい。
- ・今後の事業再開に期待を込めて「B」評価で適当と思われる。

教育委員会の評価

総合評価

12

B

財政的な課題があることは認識しているが、市民が安心して生活できる安全な地域社会の実現を目指すためには、早期に事業を再開する必要がある。

史跡大村横穴群については、現実的にはその価値や存在について、市民にどれだけ認知されているのか課題がある。

価値や存在の周知を図り今後活かしていくには、案内板やパンフレット、ホームページなどによる情報発信が大切である。

例えばパンフレットなどは、他市町村も含め古墳に特化したパンフレットの作成など広域で検討することも重要と考える。

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成29年度事業)

事業名・担当部署							
1	事業名	移動図書館事業					
2	担当課名	図書館	担当者		立山 健介		
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		8	地域資源の活用と推進

事業の内容					
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	幼児から高齢者に至るまでの幅広い市民			
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	移動図書館車の巡回を行うことで、園児・児童・生徒たちが本に親しみ触れ合う機会を創出することで、子どもの読書活動推進を図る。 図書館を利用できない、利用しづらい社会人や高齢者に対し、移動図書館車を派遣し、生涯学習を支援する。			
6	事業の概要	移動図書館車「さわやか号」に約1,000冊の書籍を積載し、全29か所の施設を概ね3週間に1回の割合で巡回している。施設の内訳は、保育園・幼稚園16、小中学校7、コミセン等6である。1か所での滞在時間は40分程度で、この時間内に、貸出資料の展示及び返却・貸出業務を行っている。			
7	コスト 財源内訳	年度	28	29	30
		合計	1,844千円	1,874千円	2,134千円
		① 国庫補助金			
		② 県補助金			
		③ 起債			
		④ その他			
	⑤ 一般財源	1,844	1,874	2,134	

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	全29か所で、合計353回実施し、22,867冊（1回あたり平均64.8冊）の利用があった。 保育園・幼稚園・小中学校への巡回は、子どもたちが、自施設では所蔵していない多種多様な図書に触れる機会を提供しており、子どもたちの読書環境や読書意欲を向上させることができた。 社会人・高齢者向けに、希望ヶ丘学園・延寿荘・うぐいす荘、各コミセン（5か所）を巡回した。希望ヶ丘学園等は、548冊（1回あたり平均60.8冊）の利用があったが、コミセンは広報への掲載や施設への掲示など周知に努めたものの利用実績がほとんどなかった。
9	今後の課題や改善等	コミセンでの利用がほとんど無い状態。コミセンと図書館の連携に関しては別の方法を模索し、移動図書館車は希望事業所・施設を公募する等、社会人・高齢者が利用しやすい巡回場所の再編等を検討する時期にきている。 また、現在の移動図書館車は平成15年2月に購入し既に15年が経過しているが、市の財政状況を勘案すると予算措置も直ぐには難しいと思われる。移動図書館車の積極的な運用を図りつつ、長寿命化を目指したい。 なお、今後は「100円商店街」への移動図書館車の出展を開始し（年3回）、人吉市図書館や移動図書館車の利用促進、啓発を図り市民の読書活動を推進するとともに、イベントの賑わい創出に寄与していきたい。

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	<p>子ども読書活動を推進する面で、幼稚園・保育園・認定子ども園を巡回し、幼少期から本と触れ合い、親しめる環境を創出する方法として、移動図書館車のビジュアルやその空間が果たす役割は大きい。また、学校図書との連携やその機能の補完といった面でも移動図書館車の運用は必要不可欠である。</p> <p>今後は生涯学習を支援する機能としての移動図書館車の運用改善を図るため、市民ニーズを的確に把握し、社会人や高齢者が利用しやすい場所に派遣する必要がある。</p>
----	------------------	--

学識経験者の意見

11		<ul style="list-style-type: none"> ・説明を受けて知ったが、移動図書館事業は全ての貸出利用のうち2割の実績になるとのことで、非常に大切な素晴らしい事業であると改めて認識した。 ・幼児や児童生徒、高齢者や障がいをもたれている方々にとっても大変必要な事業であり、本事業が果たしてきた役割は大きいと評価できる。 ・カルチャーパレス2階にある市図書館は、いわば待ちの事業であるのに対し、移動図書館は攻めの事業であると言える。今後はさらに利用実績を向上させるために、希望事業所や施設の公募や100円商店街への出店など色々計画されている。移動図書館車の買い替えも視野に入れさらに推進していただきたい。 ・巡回箇所については、市民に広く意見や要望を聞くために図書館や市広報などでアンケートを実施したり、朗読ボランティアや読み聞かせグループなどの各ボランティアネットワークと連携したりすると、拡大につながるのではないかと期待している。 ・課題に対する工夫を期待してAに近い「B」評価で適当と思われる。
----	--	--

教育委員会の評価

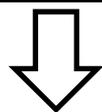
	総合評価	
12	B	<p>移動図書館事業は、図書館の業務にとってとても重要な位置づけとなっており、子どもたちが本に親しむための大事な機会提供の場である。</p> <p>子どもたちも大変楽しみにしているため、巡回回数の増加や本の選定について検討しさらに充実させていく必要がある。</p> <p>社会人や高齢者に向けての取り組みは、巡回の時間帯など制限もあり難しい面もあるが、アンケートの実施や関係者との協議などで、様々に意見をいただきながら工夫し改善していくことが課題である。</p>

< 教育方針 >

《 基本理念 》

本市は、「市民が様々な可能性を追求することができ、かつ美しい自然や歴史を未来に継承しながら、活気と賑わいに満ちた健康で笑顔で暮らせるまちづくり」を進めています。本市教育は、このまちづくりの理念のもと、市民一人一人が自ら学ぶ意欲を養うことで、将来の夢や希望に向かって自らの可能性を高め、人間力（人として生きる力）を育み、心身ともに健康で豊かな人生を送ることができる生涯学習社会の実現を目指します。

このため、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に連携協力しながら、社会状況の変化に対応する教育の向上に取り組み、豊かな人間性と創造力・国際性を備えた人材の育成や、たくましく生きる力を育む教育を推進します。



< 教育目標 >

I 生きがいを持って活躍できる生涯学習とスポーツ環境の整備

市民が、生涯にわたって自発的に学び、芸術・文化・スポーツなどに親しむことを通して、生きがいを持って活躍できる生涯学習・スポーツ環境の整備を推進します。

II 家庭・地域の教育力の向上と協働の推進

家庭や地域の教育力の向上に向けた取組を推進するとともに、学校、家庭、地域社会が協働・連携して子どもを育てる環境づくりを推進します。

III 「知・徳・体」の調和のとれた生きる力を育む学校教育の推進

子ども一人一人の個性を尊重してその能力を伸ばし、個人として、社会の一員として「知・徳・体」の調和のとれた生きる力を育む学校教育を推進します。

IV 人吉市民としての誇り、郷土愛を育む歴史・文化環境の整備

豊かな自然とそれを背景に培われた歴史と文化を守り、活用にあつめるとともに、人吉市民としての誇り、郷土愛を育む環境整備を推進します。